

〔ピラクロニル水和剤〕

農林水産省登録 第22224号

性状：類白色水和性粘稠懸濁液体

毒性：普通物

危険物：—

有効年限：5年

包装：500 ml × 20本、2ℓ × 6本

# 兆® フロアブル

有効成分：ピラクロニル …………… 3.6%

除草剤分類 14



「住友化学農業ガイド」の見方：i-農力サイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。  
本剤の最新情報：こちらのQRコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

## 〔適用と使用方法〕

| 作物名        | 適用雑草名   | 使用時期*  | 10アール当り使用量 |       | 総使用回数*             | 使用方法                 |
|------------|---|--|------------|-------|--------------------|----------------------|
|            |   |  | 薬量         | 希釈水量  |                    |                      |
| 移植水稲       | 一年生雑草及び<br>マツバイ<br>ホタルイ<br>ヘラオモダカ<br>ウリカワ<br>ヒルムシロ<br>オモダカ<br>クログワイ<br>コウキヤガラ<br>アオミドロ・藻類<br>による表層はく離 | 移植時  | 500 ml     | —     | 本剤：1回<br>ピラクロニル：2回 | 田植同時散布機で施用           |
|            |   | 植代後～移植7日前<br>又は移植直後～<br>ノビエ1.5葉期<br>ただし、<br>移植後30日まで |            |       |                    | 原液湛水散布<br>又は<br>水口施用 |
| 直播水稲       | 一年生雑草及び<br>マツバイ<br>ホタルイ<br>ウリカワ<br>ヒルムシロ  | 湛水直播のは種直後～<br>稲出芽前<br>ただし<br>収穫60日前まで                | 100 ℓ      | 100 ℓ |                    | 落水散布                 |
|            |   | 湛水直播の稲出芽始期<br>～ノビエ1.5葉期<br>ただし<br>収穫60日前まで           | 湛水散布       |       |                    |                      |
| ひえ(水田移植栽培) |   | 移植後5日～<br>ノビエ1.5葉期<br>ただし、収穫<br>90日前まで               |            | —     | 2回                 | 原液湛水散布               |

## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 主要雑草に対する散布適期幅

|                                 |                                     |   |                             |
|---------------------------------|-------------------------------------|---|-----------------------------|
| ホタルイ<br>ヘラオモダカ<br>ウリカワ<br>ヒルムシロ | 発生始期まで<br>発生始期まで<br>発生始期まで<br>発生期まで | オモダカ<br>クログワイ<br>コウキヤガラ<br>アオミドロ・藻類による表層はく離 | 発生始期まで<br>発生前<br>発生前<br>発生前 |
|---------------------------------|-------------------------------------|---|-----------------------------|

- 雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの1.5葉期までに時期を失しないように散布する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意する。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、藻類による表層はく離は発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用（但し、オモダカは有効な前処理剤または後処理剤）。

- 使用前に容器を軽く振る。
- 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達したときに必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意する。
- 軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田及び砂質土で漏水の大きな水田（減水深2cm/日以上）では、葉害を生じるおそれがあるので使用しない。
- 植代後から移植7日前までに使用する場合は、水田の代かき、均平はていねいに行い、浮遊物のワラくずなどのごみは出来るだけ取り除く。散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 移植後に使用する場合は、水の出入りを止め湛水状態で本剤が水田全面にゆきわたるよう散布する。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 直播水稲で使用する場合には次のことに注意する。
  - 使用量に合わせ葉液を調製し、使いきる。
  - 稲出芽前は落水状態で散布し確実に出芽が確認できるまでは入水しない。
  - 稲出芽時に湛水状態になると苗立ち数の低下を生じる場合があるので注意する。
  - 稲出芽始期以降は湛水状態で散布する。
  - 表面は種では葉害を生じるので土中は種で使用する。
  - 稲の根が露出した条件では葉害を生じるおそれがあるので使用をさける。
  - 後処理剤との組み合わせで使用する。
- ひえに使用する場合、ひえの初期生育を抑制することがあるので苗の生育状況を良く観察し、活着を確認してから使用する。
- その殺草特性から、いぐさ、れんこん、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。
- いぐさ栽培予定水田では使用しない。
- 散布後の田面水を他作物に灌水しない。
- 容器等は圃場などに放置せず、適切に処理する。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用する。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 安全使用上の注意

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないように適切に処理する。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管する。

## 〔品目特性〕

- ノビエをはじめ幅広い雑草に効きます。
- SU抵抗性雑草にしっかり効果を発揮します。
- 有効成分がひとつの初期除草剤です。